

## 森の土壌は 秘密がいっぱい

〈ふれあいセンター〉

十月二十九日、四万十市立後川中学校全校生徒二二名が、高知県と愛媛県の県境に位置する地域の最高峰「篠山」の原生林を訪ね、樹木や土壌にふれて自然の素晴らしさを体感したり、森林の仕組みを学ぶための登山を計画し、学校からの要請を受け、ふれあいセンター職員が講師を務めました。

篠山は、樹木の学習をしながら登ることができるよう、歩道沿い十数本の樹木に番号が付いており、生徒たちは、職員からその樹木の特徴や用途などのヒントを聞き、樹木当てクイズを楽しみながら登りました。また、森林の仕組みの学習では、特に土壌に重点を置き、資料や図鑑を使って説明すると、



生徒たちは熱心にメモを取っていました。そして、土を踏みしめたり触ったり、土の中から見つけた生物を観察するなどの体験を通して、森林土壌に大いに関心を持ってもらうことができました。

この日、篠山山頂では、三六〇度の眺望が堪能でき、生徒や先生の歓声が聞こえていました。

## 森の文化祭で蔓かご教室

〈香川所〉

香川県では、多くの県民に森林に親しんでもらおうと、毎年、ボランティアによる「森の文化祭」が行われています。

今年も、十月二十六日、高松市の公測森林公園で第一四回「森の文化祭」が行われ、香川森林管理事務所も「蔓かご教室」を担当しました。

当日の朝は、小雨交じりの天候で、はじめは参加者もまばらでしたが、天候の回復に伴って多くの方が訪れました。

当所の「蔓かご教室」も徐々に希望者が増え、「蔓かご」を作るためには、一時間程度の時間がかかるため、時間が足りず、やむなく人数制限をする程の大盛況となりました。



参加者の中には、「ドンクリの形のかご」や「楕円形のかご」が作りたいなどの希望があり、新米講師の職員が頭を悩ませる場面もありましたが、それぞれ個性的な「蔓かご」を編み上げるとうれしそうに持ち帰っていました。

生活様式の変化から、今ではあまり使われなくなった「蔓かご」など森の恵みを通じて、森林について知っていただける機会になりました。

## 高知県立香北青少年の家で森林教室開催

〈高知中部署〉

当署では、十月二十八日に、香北青少年の家に於いて、観音寺市立常磐小学校五年生六十三名を対象に、森林教室と木工クラブ作成教室を行いました。

子どもたちは、事前に学校の

授業で、森林環境について学んできていたようで、熱心にメモを取りながら、森林の現状や森林の果たす役割についての話に聞き入っていました。質問の時間には「世界一高い木はなんですか。」「なぜ山にはわき水がでるのですか。」「木はどれぐらい生きるのですか。」「など、子どもたちや先生方からさまざまな疑問が出されました。

その後の木工クラブ作成では、子どもたちの表情も和らぎ、賑やかに木の動物をつくり、楽しい時間を過ごしました。



## 木の動物作り

〈高知中部署〉

十月二十九日、高知市立行川保育園にて高知市の保育士二十九名を対象に木工クラブ教室

を行いました。この教室は、高知市保育士会身体づくり部会が行う研修の一環として行われたものです。

子どもたちの前ではいつも笑顔の先生方も、ノコギリやナイフを手に、真剣な眼差しで作品を作っていました。見本のクマやフクロウだけでなく、イヌやネズミなどのオリジナル作品も何点か登場しました。最後に、個性あふれる動物たちを手に記念撮影をし、教室を締めくくりました。

自然の恵みで作った作品をおみやげに持ち帰った先生方からは、子どもたちに木で作った動物たちの暖かみを伝えていただけることと思います。



出来上がった作品を手に記念撮影

## 「森ヶ内山ふれあい事業」

〔森林ボランティアによる  
森林整備の取り組み〕  
（四万十署）



（社）高知林業土木協会「しこくの森づくりに参加する会」と四万十森林管理署は、国有林における森林整備等の活動に関する協定を八月二十九日に締結しました。

そこで今回、第一回目の森林整備ボランティア活動が、十月二十九日に行われました。

当日は、「しこくの森づくりに参加する会」から三十二名、四万十署から、サポータースタッフとして、九名が参加し、森ヶ内山三〇三八林班で保育間伐、歩道修理の森林整備活動が行われました。



間伐作業

開会式では、会長から地球温暖化防止のため、森林整備は重要なことであり、そのためボランティア活動により森林整備活動を実施していくことが大切であるとの挨拶の後、窪川首席森林官から安全作業に関する注意事項を説明し、作業を開始しました。

現地では、保育間伐作業に六班、歩道修理作業が一班に分かれて実施しました。

間伐作業は、隣の班との間隔を十分保ちながら、手鋸を使つての伐倒作業です。初めて間伐する方もおり、署のスタッフや手慣れた方の指導をうけながら行っていました。ヒノキが主体の林分で、最初、伐倒には苦勞をしていましたが、フェリンググラブやロープなども使つて、かかり木を処理するなど実施後はきれいな間伐林分となりました。

今回締結した協定は三年間です。今後、引き続き、ボランティアによる、森林整備が実施される予定です。

## シリーズ④ 四国局の技術開発

### 地球温暖化に伴うヤナセスギ等の成長促進効果の検証作業について

〔森林技術センター〕

技術開発の主な取組について、平成二十年度は六回シリーズで紹介しており、今回はその第四弾です。

#### 【目的】

四国局管内の国有林に分布するヤナセスギ等において、年輪解析の手法を用い、肥大成長の気候変動への呼応及び現在までの樹幹蓄積量とその



円板試料

環境価値の推移を明らかにすることで、炭素固定能力を定量的に評価し、将来的に懸念される温暖化による地球環境の悪化への防止対策の一助となるデータを収集してまいります。（高知工科大学・鳴門教育大学・高知大学・愛媛大学と共同研究）

【試験地】  
四国内の国有林内で円板試料採取を実施。

【試験内容】  
樹齢一〇〇年以上のスギから円板を採取し、共同機関において、肥大成長と気象観測データとの関連の検証や成長量の試算等を行っています。

【これまでの試験結果】  
ヤナセスギの肥大成長と気温との相関については、明らかに年輪幅が広がるというものではありませんが、統計処理を行うと、成長開始前の冬期気温が高いほど肥大成長量

が大きく、とりわけ一〜二月の気温の関与が大きいことが分かりました。この時期の温暖化が進むにつれ、肥大成長量が大きくなることが示唆されました。

また、四国森林管理局が高知大学に委託して実施している魚梁瀬千本山保護林調査報告のデータを用い、ヤナセスギにおける二十年間（一九八六〜二〇〇六）の二酸化炭素吸収量を試算した結果、ヘクタール当たり約三〇八トンのCO<sub>2</sub>、年平均で約一五トンのCO<sub>2</sub>となりました。これは、二十年前後経過した、平均的なスギ人工林におけるの二酸化炭素吸収量、約一二トンのCO<sub>2</sub>を上回る値となっています。

なお、これまでの成果については、今年十月に行われた、第五九回日本森林学会関西支部研究発表会で報告しています。

（注）トンのCO<sub>2</sub>は、温室効果ガスの排出量や、吸収・貯蔵等の量を、二酸化炭素の重量（トン）に換算した単位。本課題では、木材に含まれる炭素量を二酸化炭素量に換算した。

## 白髪山保護林 (ヒノキ遺伝資源保存林)

【所在地】

高知県長岡郡本山町  
白髪山国有林二四林班外

白髪山保護林 (ヒノキ遺伝資源保存林) は、本山町の北部に位置し、白髪山 (二四七〇m)



白骨林の景観美

を中心にして、面積は、二〇八haあり、大正四年学術参考保護林に、平成二年同保護林に変更され、県立自然公園にもなっています。

白髪山はヒノキを主体とする天然林で、北面は成長が良く美林を形成していますが、南東面の頂上付近は気象的要因により樹冠が白骨化したものが多く、ホンシヤクナゲと白骨林の景観美に四季を通じて多くの登山者が訪れています。

山名は、白く光る岩が多くあることに由来するようで、以前は白峨の字を使っていたが、その後、白髪老翁 (猿田彦) を祭ったことから白髪山と呼ぶようになったと伝えられています。

白髪山の天然ヒノキは、江戸城・駿府城の建立にも貢献され「御留山」制度のもとに管理されていました。

また、土佐藩は藩財政の建て直しのため大阪に木材市場をつくり、良質の白髪天然ヒノキを販売したところ市場を独占したと言われており、今でも木材市場跡に白髪橋の地名が残っているそうです。



林内の天然ヒノキ

当署は、この貴重な天然資源保護のため、林野巡視や登山者へグリーン登山を呼びかける等「白髪山のヒノキ」を次代に継承していくこととしています。

登山コースは、四コースありますが、吉野川支流の汗見川を逆上り奥白髪林道から登る冬の瀬コースが一般的で「嶺北ネイチャーハントガイドブック」では中級者用の登山コースにも指定されてお

り、比較的傾斜が緩くケヤキ、モミ、ツガ、天然ヒノキの美林を眺めながら約一時間三十分で頂上にできます。

山頂からは梶ヶ森、三嶺、石鎚山等の遠望もでき、昔本山一揆で立てこもった岩屋跡や風穴を利用した穀物の貯蔵庫跡などがあるほか、古くから神の山として人々の信仰を集めていた山でもあり一度、美林と歴史のロマンを訪ねて見ませんか。

## 平成21年度「国有林モニター」募集中

林野庁四国森林管理局では、もっと国有林について知りたいという国民の皆様に対し、国有林の役割や業務についてご理解いただき、国有林の管理・経営に皆様の声を役立てていく一環といたしまして、「国有林モニター」を募集いたします。



平成20年度第1回勉強会(徳島県三好市)

### ●モニターの内容

- ①国有林に関するアンケートへの回答
- ②国有林に関するご意見やご提言などの報告
- ③国有林モニター会議、勉強会への出席

### ●応募資格

徳島県、香川県、愛媛県及び高知県にお住まいの国有林に関心を有する20歳以上の方(ただし、国会及び地方議会の議員、地方公共団体の長及び常勤の国家公務員並びに前年度にモニターとなった者は除く)

### ●募集人員 26名

### ●依頼期間 平成21年4月から平成22年3月まで

- 応募方法 官製葉書、FAX又はEメールで氏名(フリガナ)、性別、生年月日、年齢、住所(郵便番号)、電話番号、職業のほか、「国有林モニターを知ったきっかけ」を具体的に記入ください。また、「国有林モニターに応募する理由」を100字程度でまとめて応募ください。

- 応募先 四国森林管理局「国有林モニター」係
- ①郵送：〒780-8528 高知市丸ノ内1丁目3番30号
  - ②FAX：088-821-2025
  - ③Eメール：shikoku\_kikaku@rinya.maff.go.jp



- 募集期限 平成21年1月12日(月)当日消印有効

- 発表 選考結果は平成21年3月頃、国有林モニターになっていた方へ依頼状の発送をもってお知らせいたします。

平成20年度第2回勉強会(高知県香美市、高知市)

### ●その他

- ・国有林モニターになっていただいた方には、国有林の事業概要やイベント情報などを定期的に送付いたします。
- ・国有林モニター会議又は勉強会にご参加頂いた方には、当方の規定に基づき旅費を支給いたします。
- ・国有林モニターとして提出いただいたご意見やご要望には、個別にお答えすることはできませんので、あらかじめご了承ください。
- ・国有林モニターは、より多くの国民の皆様身近な存在として国有林を感じていただけるよう、国有林の役割や業務について情報を提供し、併せてご意見等をいただくものですので、既に国有林についてご存知の方(例：国有林OB、業界関係者、森林・林業担当の自治体職員、国有林に要望等の活動を行われた方、これまで国有林モニターとなった方等)におかれましては、お断りさせていただく場合があります。また、応募状況によっては、抽選とさせていただきますことを、あらかじめご了承ください。
- ・選定結果に対する個別のお問い合わせにはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。
- ・個人情報については厳重に管理するとともに、国有林モニターに関する利用目的以外に使用いたしません。

お問い合わせ 〒780-8528 高知市丸ノ内1丁目3番30号 四国森林管理局「国有林モニター」係  
Tel 088-821-2160 <http://www.shikoku.kokuyurin.go.jp/>